



横手市から見た鳥海山



【秋田県版】
No. 367
2022年1月15日

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

発行人：田中幹夫
〒113-0034 東京都
文京区湯島2-4-4

秋田県本部

〒014-1413
秋田県大仙市角間川町
宇東中上町27
最上健造 方

TEL&FAX
0187-65-2115

国賠同盟の値打ちに確信をもって もっと多くの人たちとの対話を広げ 運動と組織の前進に力をいれましょう



秋田県本部 会長 最上健造

同盟運動の目的

- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 1、国は、治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
 - 2、国は、治安維持法犠牲者に謝罪し、賠償を行うこと
 - 3、国は、治安維持法による犠牲者の実態を調査し、その内容を公表すること

あけましておめでとうございませう。

会員のみなさんのご奮闘に敬意と感謝を申しあげます。

昨年は「コロナ禍」のもとで、同盟の要求実現のため「野党共闘」実現に努力しました。同盟が激励し応援した候補者が当選し、また大健闘しました。地方選挙では、国賠同盟会員が候補者として、会員のみなさんも勝利のため奮闘しました。

今年も、総選挙後の新しい情勢のもと、夏の「全国

大会” 参議院議員選挙”

めぐし、さらに同盟の力を強く大きくするため決意を固め前進しようではありませんか。

総選挙の結果は、野党共闘による前進とともに、改憲勢力が2/3を占めるなど、新たな緊迫した局面をつくりました。「再び戦争と暗黒政治を許さない」という国賠同盟の目標実現のためにも、さらに多くの皆さんと連帯し、憲法改悪許さない運動を広めましょう。

今年も、すべての会員のみなさんが、同盟に入ってよかったと思える活動を進

これは「語りつぐ」ことの大切さであった。たしかに私はそれらの記録を一旦はクズ箱へ投げ棄てている。しかし、それは自分そのものを投げ棄てることではなかったか。

人にはそれぞれの歴史がある。広辞苑によれば歴史とは「過去の変遷・興亡のありさま」とある。しかし歴史が本当にその意味を持つためには、それを単なる知識としてではなく、その歴史の継続である「今」に照応させてこそはじめて眞の歴史となるのではあるまいか。

「気がついたら日本は再び軍国主義になっていた」「朝、目を覚ましたら戦争になっていた」では遅いのである。

治維法同盟が天皇制の非道をあばき、その犠牲となった多くのひとりの歴史を掘

マルティン・ニーメラー牧師の詩



マルティン・ニーメラー 神学者 【1892-1951】

ナチスが最初共産主義者を攻撃したとき、私は声をあげなかった。私は共産主義者ではなかったから

社会民主主義者が牢獄に入れられたとき、私は声をあげなかった。私は社会民主主義者ではなかったから

彼らが労働組合員たちを攻撃したとき、私は声をあげなかった。私は労働組合員ではなかったから

そして、彼らが私を攻撃したとき、私のために声をあげる者は、誰一人残っていなかった

り下げるのも、すべての国民が直面する平和、進歩のための歴史的役割を誰にもまして痛烈に骨身に刻みつけているからに違いない。

（元衆議院議員・同盟県本部顧問）

第57回秋田県多喜二祭

とき 2月26日（土）

午後1時

ところ 秋田県生涯

学習センター

講師 李賢峻

（イ・ヒョンジュン）

演題 『半島の舞姫』崔承

喜と秋田小林多喜二が生きた時代を背景として

※李賢峻プロフィール

1976年生まれ。小樽商科大学准教授。現在、武蔵野大学教授。専門は日韓比較文学・文化。

第43回大館小林多喜二記念の集い

とき 2月27日（日）

午後1時

ところ 大館市桜町南

大館市中央公民館

講演 秋田と同じ

今月の注目の言葉

「権力に対する人間のたたかいは、忘却に対する記憶のたたかいである」

これは天安門事件追悼行動判決における香港民主活動家ミラン・クンデラ（チェコ出身作家）の陳述である（2021・12・16「しんぶん赤旗」より）



伊藤千代子の『青春』 決定版の映画化決定

めましよう。学習会や先人を顕彰する行事を計画し、会員も会員以外の方も誘いし、同盟に入っていただけけるきつかけをつくりましよう。

弾圧時代、戦争に協力す

ることを拒み、社会を変えらるため命を賭した多くの若者の生き方を学び、今日の運動前進の礎としましよう。

みなさんが健康に気をつけ、新たな前進を切り拓くよう頑張りましたましよう。

「不屈」再録シリーズ⑩ 県版「不屈」No.20（1993年1月）より

新春随想 歴史について



中川 利三郎

議員、候補者活動のあいまを盗んで私はこれまで何冊かの本を書いてきた。いわゆる「風シリーズ」がそれである。

昨年、出版した歌集『風鳴りやまず』は、ちようど

このシリーズの五部作目にあたり、それはまた最初の作品となった『風の足音』から数えて二〇年目となっていた。だからこの五部作目の出版に私なりのふしめはじめの意味を持たせかつ

たのは当然であった。つまり、それまでの「風シリーズ」が私の議員や候補者としての個別、日常性の記録であったとすれば、その五部作目となる『風鳴りやまず』をささやかであれ、私の体験的昭和史として総括したかったということである。

しかし、これまでの文章ものと違い、それが歌集形式となるなど、実のところ私の予想にもなかった。たしかに私には日記代わり拙い短歌を書き綴った戦中、戦後の一時期がある。それをカビくさい古いノートに発見したとき、私はいまの社会にもはや用のないものとして一旦はクズ箱へ投げ棄てた。しかし、それらの短歌の内容となったその時代はまさしく私の戦後史の原点であった。

私にとって青春のきらめくその時代は絶対的天皇制

で民衆にとってにはひとかけらの自由も人権もない暗黒日本であった。私は兵隊にかりだされ、バミール海峡で、フィリピンのジャングルで数多くの地獄を見た。

戦後も役立たずになつた障害の右腕をかばいながら激動と混沌の世相を一家の働き手としてひもじさと飢えにたち向かった。それらはたしかに遠い過去のことであつたにせよ、私にとつて忘れることも、避けて通ることもできない課題であつた。

秋田の一地方出版社から出されたこの歌集は意外な反響をよんだ。少しオーバーな表現を借りれば、私は全国の見も知らぬ人びとからさえ、ひとかかえにも余る読後感やげましの手紙を頂戴した。こうした反響の中から私があらためて学び教えられたことがある。そ

治安維持法の
歴史

治安維持法の

「現場」

治安維持法事件はどう裁かれたか

荻野富士夫

六花出版

定価 2,750円（税込み）